

わざわい  
災  
から

2018/11/17 名古屋市消費生活フェア報告

# 命を守る 命をつなぐ



CANは、11/17(土)栄のオアシス 21 で開催された名古屋市消費生活フェアにブース出展しました。ブースのテーマは、昨年に引き続き防災・減災。「巨大地震」「気候変動による異常気象」のリスクがいっそう高まっているからです。折しも今年の漢字に「災」が選ばれました。「わざわい」から如何にして自分の「命を守り・つなぐ」か！私たち一人ひとりが当事者です。

(CAN レポーター 大村昌宏)

# 「お住まいは何区ですか？」

## 「ハザードマップ」でチェック

来場者に「何区にお住まいですか？」と尋ね「ハザードマップ」を広げて水害リスクを考えてもらいました。

「水色だから 2m の浸水・冠水リスクがあります」「この浸水ポールを見てください。背の高さ以上に水がくる可能性が」。とりわけハザードマップ全体が水色、濃い紺色に塗られた地域が多い中川区や西区にお住まいの方は真剣な面持ちでした。



## 「災害」の常識が変わった！！

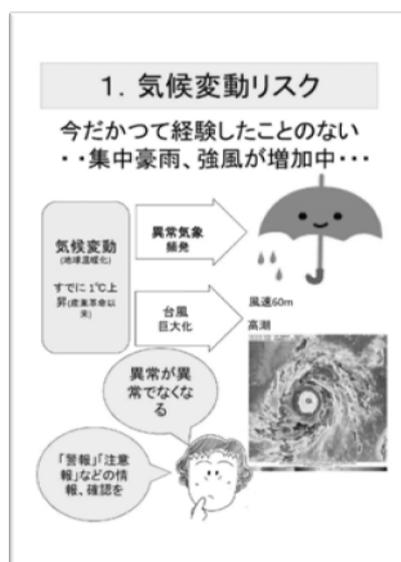
### 減災の提案

パネルでは、あなたの「防災・減災」の常識はバージョンアップしていますかと問い掛けました。そして「命を守り」「命をつなぐ」ための提案をしました。



異常気象が頻発しています。豪雨災害が起きる度に「五十年に一度」「百年に一度」という言葉が使われていました。人生の間に一度は経験するかもしれないかの意味でした。しかしこれが毎年のように日本列島のどこかで発生するようになってきました。

さらに「異常」がさらに狂暴化、「いまだかつて経験したことのない・・・」という表現もされるようになりました。とりわけ豪雨については、河川の排水流量の限界を越える雨量となり氾濫、冠水が頻発するようになりました。気候変動、地球温暖化の進行によりさらにこのリスクが拡大しています。



プレート型の巨大地震の発生が、この 20 年～30 年の間に発生することが確実視されています。起きるかもしれないではなく「必ず発生」するのです。ただし「いつ発生するか」を予測する科学力をまだ私たちは持ち得ていません。備えるしかないのです。

直下型の地震については、日本列島のどこかでいつ発生してもおかしくないと言われています。活断層として認識されていない断層が、日本列島にはまだ無数にあります。



## 「命をつなぐ」ポイントは 水・食べ物・トイレ

プレート型の巨大地震は、「広域」に被害をもたらします。直ぐに救援は来ません。自分で持ちこたえるしかありません。一週間は持ちこたえられるよう備えておきたいものです。

「避難所のスペース」は限られています。自宅で避難生活がおくることがベターです。

まず「飲み水」の確保。人は生きている限り代謝で「水」を失います。「命をつなぐ」ためにはまず「飲み水」を一週間分備蓄しておく必要があります。

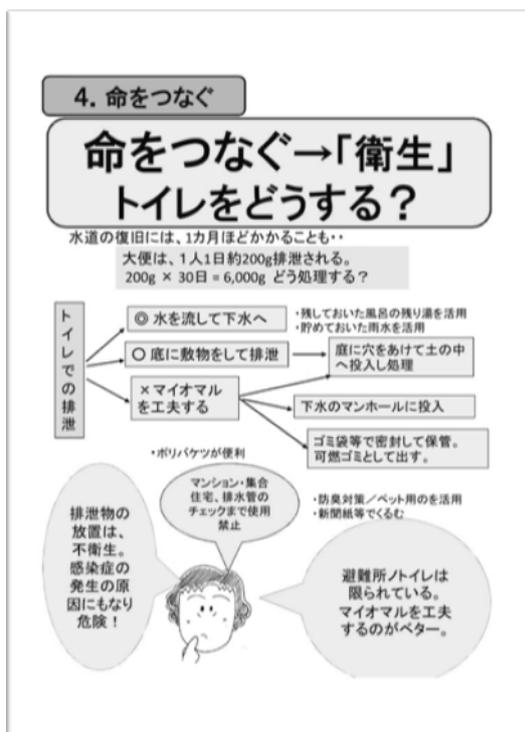


食料の備蓄については「ローリングストック法」を提案しました。長期保存型の飲料水や食料は、保管場所が必要だし、何年か保存しているうちに期限切れになり廃棄するハメになりがち。ローリングストック法は、普段使いの備蓄法。普段使う飲料水や食料を多めに購入、先入れ先出しで消費していく方法です。使ったら補充しておけば無理なく無駄なく備蓄できます。



災害時、一番困るのがトイレです。避難所のトイレは限られています。自宅で避難生活をおくる場合、トイレはどうしたらいいのでしょうか。

庭がある家なら穴を掘って汚物を処理するのがベターです。困るのは集合住宅です。とりわけ高層住宅の場合、排水管のチェックが終わるまで絶対に水洗を使わないことです。排水管がどこかで壊れていたら新たな被害をもたらしてしまいます。新聞紙や袋に入れて保管し、燃えるゴミとして出すのがベターです。以前はお風呂の水を流さず災害時に利用することが呼びかけられていましたが今は行われていないようです。



## 「命を守るアンケート」

### 79 名の方と対話

ブースでは「命を守る、命をつなぐ」アンケートを実施しました。設問は 5 つ。

以下、質問と回答の結果です。％は、回答中の割合です。

#### 1. 「飲み水」を備蓄していますか？

- a. 1週間分以上の水を備蓄している。 …… 22 %
- b. 3日分以上の水を備蓄している。 ……47 %
- c. 水の備蓄はまったくしていない。 ……24 %
- d. その他 …………… 8 %

4 人に一人がまだ備蓄をしていませんでした。「飲み水」さえあれば数日命をつなぐことができます。必ず備蓄しておきたいものです。

#### 2. 「震災の際、家具は凶器と化します。転倒防止等の対策をしていますか？

- a. 家具は倒れたり飛んできて凶器と化す!!まったく考えてもいなかった。 …………… 5%
- b. 対策が必要と考えているが、まだ実施していない。 …………… 47%
- c. 転倒防止や固定など実施している。(一部でも結構です) …………… 47%

まだ実施していない方が半数以上でした。固定していない家具は、地震の際、凶器と化して私たちに襲います。直ぐに固定したいものです。

#### 3. 「(自助)水害や地震への備えについてご家族で話し合ったことがありますか？」

- a. 話し合ったことがある。 …… 83 %
- b. 話し合ったことがない。 ……15 %
- c. その他 ……1 %

8 割の方が家族で話し合ったことがあると回答。まず「自分の命は自分で守る(自助)。備蓄品や貴重品の保管場所、安否確認の方法、避難経路、避難先等、家族での情報共有が大切な備えになります。

#### 設問 4 「(共助)いざという時、たよりになるのが共助(ご近所、地域のみなさんとの助け合い)です

- a. 「お互いさま」と日頃から挨拶をかわし親しくなるよう努めている。 ……54 %
- b. 知っているがあまり親しくない。 ……35 %
- c. ご近所や地域の方のことはあまり知らない、疎遠だ。 ……10%

半数の方が「お互いさま」と挨拶をかわし親しくなるよう努めていると回答。

**5. 地震や火山噴火、台風等の自然災害は発生を防ぐことができません。しかし社会災害は、人間が原因で起きること、取り組みしだいで発生を防止できます。あなたが必要だと思う項目に全て丸をつけてください。**

- a. テロの温床は貧困。経済的自立ができるよう援助を強めよ。 ..... 46 %
- b. 原発事故は、原発を無くせば、発生を防げる。原発のない社会をめざそう。 ..... 51 %
- c. 戦争を起こしてはならない。外交努力と相互理解の推進を最優先で。 ..... 67 %
- d. 軍事力を強めないと相手になめられる。力の均衡を保ってこそ平和を保てる。 ..... 5 %
- e. 国民監視を強めることは、不信と不安を増やすだけだ。情報公開と政治参加の促進こそ必要。 ..... 34 %
- f. その他 ..... 5 %

回答者の 7 割り近くの方が「戦争を起こしてはならない」と回答。

会場で対話できたご高齢の女性。「ワシのいた防空壕の真ん前に爆弾が落ちた」と70数年前の体験を語ってくれました。最悪の「わざわざ」は戦争です。戦後70余年の「平和国家」としての歩みを継続していきたいものです。

アンケート結果の詳細→ホームページ「命を守る、命をつなくアンケート結果」をごらんください。

**災害多発のもと、**

**気候変動・地球温暖化**

「スーパー台風」の発生や豪雨災害をもたらしているのは気候変動・地球温暖化です。「気候変動リスクを減らすために「脱炭素社会の実現を」と呼びかけました。

## 気候変動リスクを減らすために

「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する」  
気候変動枠組条約 COP21/パリ協定 (2015年)

**「脱炭素化社会」の実現を急ぎましょう！**

**「病院船を」 canメンバーのアイデア**

- ・ 災害の度に設置される避難所、簡易住宅は貧弱だ。移動可能なトレーハウスやコンテナハウス等を準備しておくべきだ。
- ・ 「病院船」が有効だと思う。医療設備を完備し水・食料・燃料を大量に搭載できる。日本列島何処にも回航できる。
- ・ 避難ホテルとしても活用するといい。数千トンクラスなら多くの避難者を収容できる。
- ・ 「空母」型の護衛艦ならすぐに転用できる。
- ・ これなら海外の被災地にも派遣できる。「平和国家日本」のは大きな平和のための「武器」になる。

